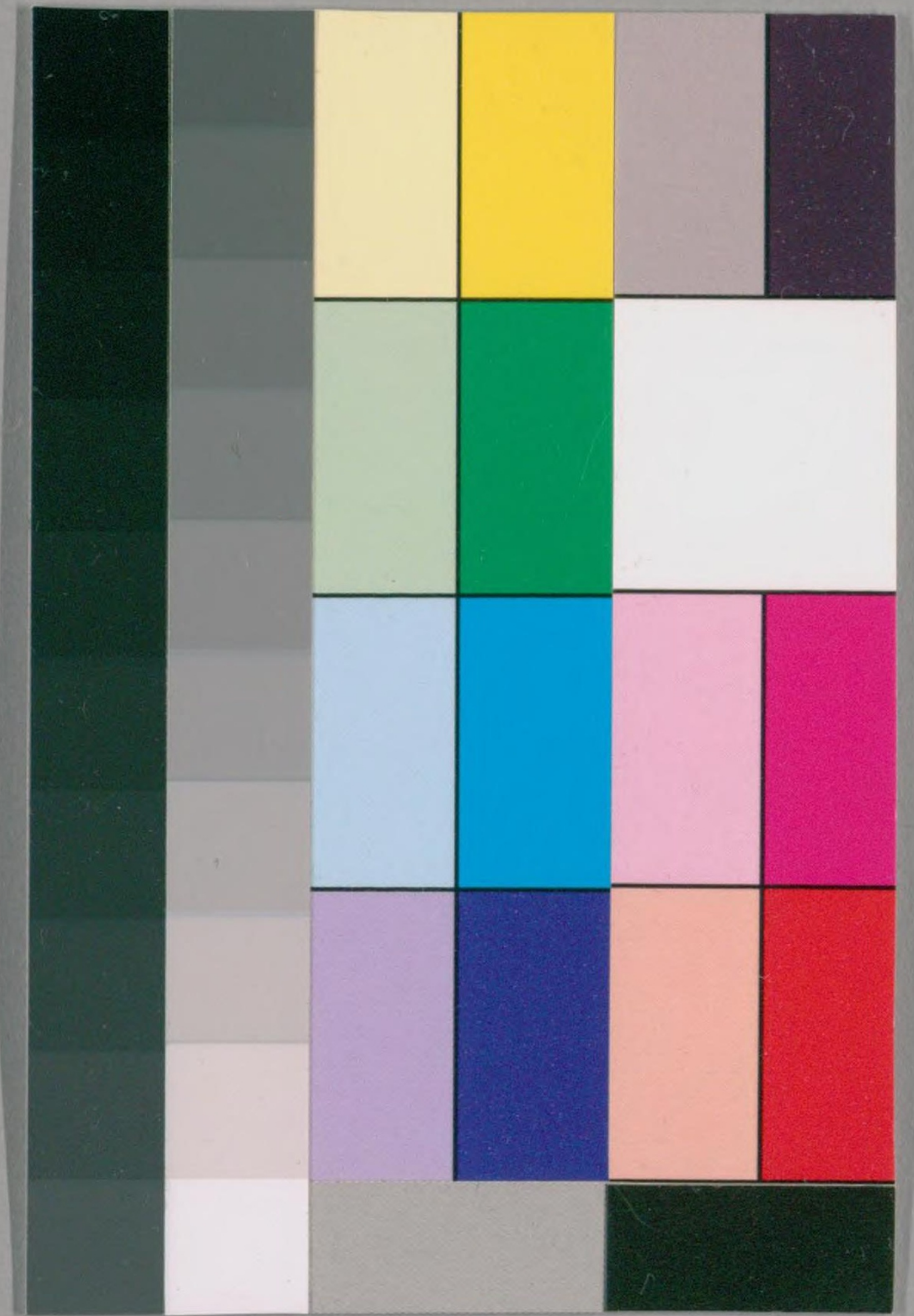


地錦抄附録

一

185  
20  
133

二十  
葉形  
色付  
此頁









連波



後西院

葉形丸く切せりし  
由りふ大なるみづく  
去りかえぬふねかき色  
夏をかかへんみづく  
あり林をふねかき  
色ゆらりてせむし  
あうれく見ゆふ  
こみかへんみづく  
うきもたへんみづく

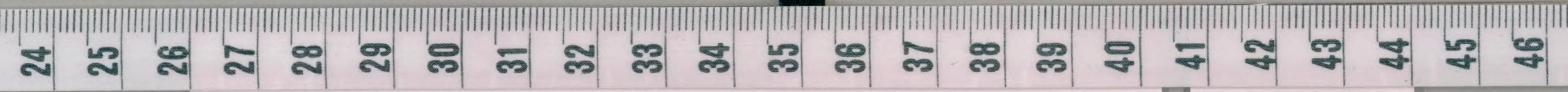
初花



後宇多院

葉形丸く切せりし  
葉もやみづく  
さそとやみづく  
てうすりおとせり  
うきもたへんみづく  
うすりおとせり  
あつた  
あつた

くさお井のらし  
あまのいげく





ら  
る



和製

葉形らるるりてもく切  
とくふく<sup>かた</sup>りてと  
とてありはにさみみ  
くありまのち葉のり  
長し<sup>かた</sup>くぬまの葉のり  
れくあり<sup>かた</sup>ありて林のり  
と

和製  
所産

後水尾院



葉形らるるるるるる  
日小くふくありてあり  
はとふく<sup>かた</sup>ありてあり  
れとび<sup>かた</sup>あり又葉のり  
ありてありてありてあり  
ありてありてありてあり  
ありてありてありてあり

らるるるるるるるる  
ありてありてありてあり



葛城



葉形極てらうく葉紋多うぶく  
付てふさふさいふいふまろむしより  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
葉は茎枝このふおくして葉は  
わらわらこころとまろむし

後陽成院

のみらとれとら此書を入り  
まろむしのかうん葉らうぶく

浅茅



葉形丸くまろむしとら  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく

仙洞

まろむしのかうん葉らうぶく  
まろむしのかうん葉らうぶく

葛城

三

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46



まじりて  
あは葉



葉形丸くまわつてまじりて  
まかし紅葉のまじりて  
花をもゆかりてあつて  
まをこぼれ葉とかりりあひ  
かぐあきくを秋のあは  
いゆくと小葉あ

為細

今よりいふとそめひととのみら

まのまじりては法にまじり

唐織



葉形丸くまわつてまじりて  
まがし紅葉のまじりて  
花をもゆかりてあつて  
まをこぼれ葉とかりりあひ  
かぐあきくを秋のあは  
いゆくと小葉あ

固久

そめくくまじりてあは葉  
あは葉とかりりあひ

一五

五





結露



名月しらゆらけの秋の夜  
葉形ららしくもくもく  
似くおもむね多ふも  
らしくもまのまの  
やももあつくまのりく  
つひよあがらる林乃  
うとあ黄らりく小  
今もな成えらるも  
こひのりみらるく

有教

夕霧



花の好むお物箱根山と下  
しきてふ葉とてく  
楓葉中には楓二葉に  
そお持はて秋葉の  
形くまはれも  
萌黄也  
也ふくく  
葉也ふ  
か夜と

通信

地錦抄

六





約集

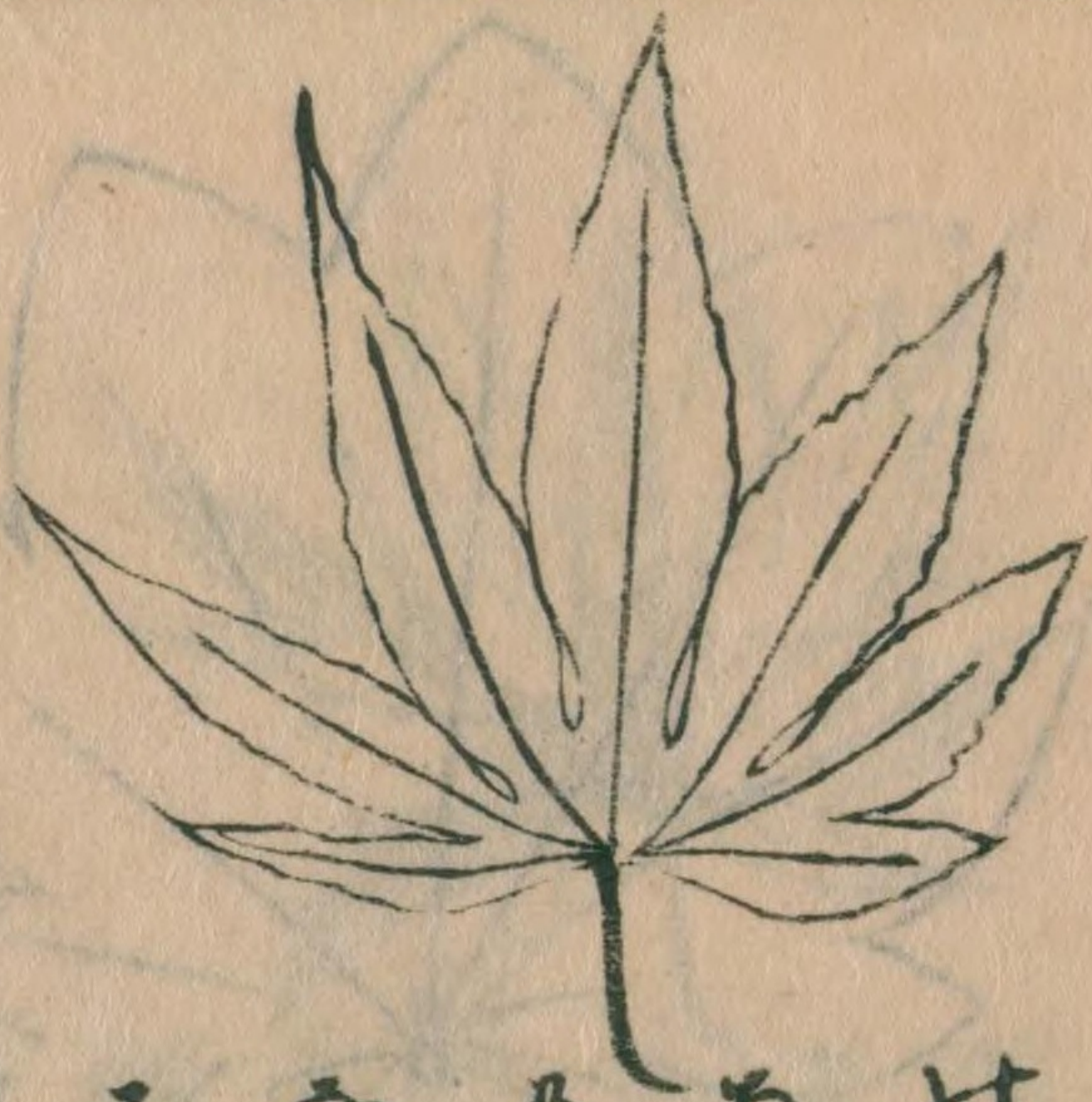


葉形をてせう切せし  
ふくむるふくむるしき  
らくむるしきむらぶらぶら  
りき色葉のまわりりりり  
早り夏を茶色ふかしの葉  
形くむるふくむるあつ  
林の一本のむらぶら

通巻

いふとて端しとてうーいふとて  
何雨のあふ山のりりり

吳服



葉形をてせう切せし  
大いふふふふみありり  
此が葉のりりりりりりり  
ありりり茶色ふくむる葉  
の茎りりりりりりりり  
ありりり林の色な知りり  
お葉色りりりりりりり

たてぬたふかくや葉をまうし  
よのそふくむる葉のりりり

雅齋

地錦抄

二





楓



葉形人ノ長しきと短しきと  
相ノ実をもちて切れば  
多きまらむかしてのち  
少きまらむかしてのち  
おしてとてくまらむか  
葉はよそめて入るゆあり  
まらむかしてのち  
おぬらちまらむかして  
まらむかしてのち

実陰

扇子流



葉形いろくふか山楓の  
かゝるもあつたて  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち  
まらむかしてのち

家種

たれを舟とくちのり色物あり  
かゝるもあつたて





林麻寺



秋の地豆別乃たぐ少ぬらしに  
山寺の庭よ一本の楓も色ぬふ  
とれれり葉飛もかちりて  
丸葉らいろくあつくまなりあり  
まわりふふとせりせとりり  
はまなふともいへーとかり  
しき葉秋をねむ程とりぬ  
挿くぬり寺と名付

あひ入ぬらしに此の葉は

後撤

十寸焼



まの葉も赤くやまほのみらの  
く暖やいさかしのま中ふ  
白野こまらに多の派抄みれし  
くまの白中みまの葉はうりく  
あしりのあつらふ葉は中知  
葉も白野こまら又派抄地乃  
おとくあつらふあつらふ葉は

あつらふあつらふあつらふ

あつらふあつらふあつらふ

葉は



其間



種子葉



花のみらばははくいの乃を香みく  
あはくははくいの乃を香みく

通村

下徳園美乃山弘法高八日蓮宗此在跡  
その佛殿の存不相乃言不さいし  
二斗極なる本あり今ハ又本とあり一斗  
二股なる地り文余あり七枝十余あり方に  
とびより本也葉形も相也葉番の小傍お  
修しは葉れ中に種子はさかこもあ

木の相は繁ううらとふと何と見ゆるはその  
どく葉葉もあつた林れをいふていよは葉は程と  
推てあ方のりみらとまま同ハあ号あくもを  
多やびるお人多しはうらりの丹海自中ては

七瀬川



林ふうたこの川きしに秋見く  
是乃あらせくえこののみらと

葉形切也ふくもして別遠  
ゆりのふきざしわりのまれお  
よりうとせしゆされを後やど  
葉のま中まを葉乃どく  
さ取りゆりうらとせしゆされ  
ふ取りああり林乃おああり  
くお深さ

通村

●地錦抄





朽葉くちば



葉形スツ平葉の横へ懸ク  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき  
しつとせしきしき

重條

志ろきてんねらうあはん葉はけさあうあうしん

水門みづかど



東海乃水門補陀山海聖寺の禪林の古  
葉なり山一面ふりみら此木好く志けり  
南へ海とまんくとしてふの岨風吹續ゆ人  
まわりみら此木亦より各別よかんく  
葉もまがれくみくう今もあざやう  
にうら又ま葉をもちもあま葉をもち  
林を越入終日多しは種よりしき種より  
しき種よりみらあまくは方こそま  
切葉なり

高河ぬまてやそめあはかく時方  
うまはちうすさあはれりみら



黄八丈 きんぱちぢょう



葉形切込ありゆりりに  
 大さきいふさきあり  
 葉かへりのあざくか  
 連なり反色かきん  
 秋さきく黄むしり  
 もがきく片まじり  
 平知らとありりくは深

葉形 きんぱちぢょう 一夜乃為れきく深し  
 こゆりてさきくは深し

基盤

清照 しやうてい



葉形よく切込ふくま  
 にさきく葉かきん  
 きくふりりくぬき  
 あくかうありりく  
 うすむ黄むしり

ゆきく

稱直

こゆりてさきくは深し  
 のみらさきくは深し





葛根菜



梨形切込葛根菜の葉は似くまか  
 葉よりうらむと花は走つひようす  
 秋乃比ら山の少成るはふさ  
 うらむと付まき中は相回く  
 ちあひは深くそがあふ時張  
 うらむとい一輪令く葉取うり  
 葉乃又とくまされは折見し七枝の  
 実種  
 山あしそとをくや人かうら乃山  
 林のともかられ葛根菜下とら

水潜



秋乃比武島鉄火の少成とくまふ知葉中ふ  
 て山岩峰と行は山川の葉は知葉多葉多あり  
 水と深指れ葉は細く葉は細く葉は細く  
 細より濃まふを付き川乃名とあひは六甲八依  
 の内室とあはれとそよみ我りみら此水  
 なるは深美やゆふやゆふを思ふ  
 のさすはあふ虚言といふいあふそは  
 山雲と相れれ不三四番あはれとあふ  
 は村の葉とんべいし葉はあふりてさうりぬ  
 根と細く村里れは葉とあふりてさうりぬ  
 山と相の種とあふりてさうりぬ  
 をかきり秋乃又とくまされは折見し七枝の  
 実種  
 山あしそとをくや人かうら乃山  
 林のともかられ葛根菜下とら

義也





金網きんあみ



葉形大つ切通ぬくわりく  
ゆりのふたさざみまきお葉  
葉乃色くまきまてかか  
し夏ハ流葉しかまり紅の  
久くまき地黒紅の小袖乃色  
地く葉の内小赤いま林ハ  
か細うまおりろく小葉  
赤まわ色そめはくま紅葉あま  
考りとそあつ文けく口うわ  
賢慶

松紙しょうし



葉形やそく切まどうしわそ  
まう葉数多まきり付きく  
ま乃ましくまきくまきま  
ありてまびらまきまひへ  
夏色からうず葉のりよら  
秋まか細うすのゆとりまき

實冬

行くぬく入まきゆまけ松紙の  
あふまきまき乃のみ



185  
20  
133

のこむ  
約指



飛邊か未

十四

葉形スク切せふく  
千しくめざりふかうたふも

春乃も葉おほ葉の色く夏ハ

葉又うもくうすの文より

葉ののうとましくもかきん

林を走すく保

のひなも木のくせしとま

ナリ我々神のこせ約のり

葉くは定家乃強

くみまそわさるんか  
知葉とらふのわくか  
葉の  
葉



185

東 京 圖 書 館

和書門

音 樂 類

羽 札 函

三 架

133  
二 一 號

二 〇 冊



国立国会図書館

タイトル『地錦抄 16巻附録3巻』

請求記号 185-133

ガラス使用